

US OPEN JUNIOR 2017

Tournament Report 2017 8/27~9/6



主 催：全国高等学校体育連盟 テニス専門部

報告者：宮崎県高体連テニス専門部 柴 知数

○参加者

- ・男子選手 菊地 裕太 (相生学院高校)
- ・女子選手 黒須 万里奈 (山村学園高校)

- ・団 長 永井 清二 (全国高等学校体育連盟 テニス専門部事務局長)
- ・監 督 黒田 守 (全国高等学校体育連盟 テニス専門部副部長)
- ・コーチ 柴 知数 (宮崎県高等学校体育連盟 テニス専門部委員長)
- ・コーディネータ 上田 篤 (アメアスポーツジャパン)



8月27日、16時に品川プリンスホテルに集合。壮行会と夕食会を行った。古賀賢全国実行委員会会長、家弓明丈全国高体連テニス専門部部長、バモス！わたなべ副応援団長が出席して下さった。菊地選手は初対面にもかかわらず、気さくに声を掛けてくださり、私もお世話になっている相生学院の荒井先生のこと、宮崎県での年末の合宿の様子、宮崎県出身の選手などの話で盛り上がった。菊地選手は岩手県出身で、中学時代までは全国大会の常連ではなかった選手である。しかし今年度は全国高校総体を圧倒的な強さで3冠、昨年度のUSオープンでは本戦まで出場している。その態度は飄々としてマイペースだが、自然と応援したいと思わせる雰囲気を持っている。



8月28日、7時半にジャンボタクシーで羽田国際空港に移動。



10時40分出国手続き等を済ませ、いよいよ出発。



8月28日、10時半にジョン・エフ・ケネディ空港到着。Zetsu コーチが迎えてくれる。



12 時～14 時、試合会場を下見、一般選手の練習風景も見学する。



14 時半～15 時、バッテリー公園に観光に行く。自由の女神をバックに写真撮影。
その後、グランドハイアットニューヨークに移動し、チェックイン。





18 時～19 時半、ジョンマッケンローテニスアカデミーで練習。ショットの感覚と身体の動きを確認した。

黒須選手はコート外では笑顔を絶やさない。私が入国審査でひどい目に遭ったことや、公園での少女との出来事を大笑いしていた。しかし、コートでのアップ等の準備が素晴らしく、当たり前だが意識が高く、切り換えのできる選手であると実感した。

菊地選手のボールの飛ばし方、精度を上げるために顔を残し、芯を叩くこと、球を打たない時に常に素振りイメージを作り、それに近づけようと練習している姿が印象的であった。



8月29日、9時～11時半までバン・ソーン公園テニスセンターで練習を行う。菊地選手は Chikaya Sato 選手と、黒須選手は Ava Markham 選手と対人練習とポイントゲームを行う。



雨のためにコートセンス（室内コート）で、14時～15時半まで練習を行う。

午前中は曇り、午後からは雨だった。午前中は10・11月の寒さで、ジャンパーが必要であった。菊地選手は昨日と同様、自分でフォームを確認しながら黙々と練習をしていた。黒須選手はフットワークが素晴らしい。昨夜の夕食、今朝の朝食も上手く食事が取れていなかったが、昼食からは適応できてきた感じである。ハードコートに慣れておらず、イライラしながら練習をしていた。時差ボケからか、帰りの車の中では全員、爆睡していた。



8月30日、9時～12時、14時～17時までバン・ソーン公園テニスセンターで練習を行った。

菊地選手は体が軽すぎると言っていた。ゲームでは Sato 選手をショットの精度と展開の早さで圧倒し、6－1で勝利した。反省練習の中でフォアハンドストロークの高い打点のミスが多いと感じたため、球出し練習で締めくくった。この高さまでが限界だと確認し、基本はステップインして打つこと、場合によっては下がって打つことを確認した。

黒須選手は途中で腰の張りを訴え、休んだ時間帯もあったが、Andrea Cerdan 選手となんとかゲーム形式まで練習を行った。右足の疲労骨折のためにインターハイと全日本ジュニアを欠場し、今大会に備えて賭けてきただけに是非、頑張ってもらいたい。



8月31日、午前中は菊地選手と黒須選手はホテルのジムでトレーニングを行った。
12時からクレデンシャル（出場選手IDカード）を作った。
15時～16時、大会予選会場で、菊地選手はフィリピン出身の選手と練習、並びにタイブレーク形式のポイントゲーム、黒須選手はイタリア出身の選手と練習を行った。

その際、相生学院の荒井先生が応援に来られた。菊地選手が日頃、お世話になっている指導者なので、顔を見て落ち着いたと思う。サービスのトスの位置、ゲームを通しての本人との確認、そしてストレッチをして下さった。試合後に菊地選手が荒井先生に「フォアハンドストロークは力が入った時は良くないけど、力が抜けている時は良い感じのボールになります」と話しているのが印象的であった。素直に自分のできていない点を話し、アドバイスも受け止められる良い関係だと感じた。頑張って貰いたい。





16 時～21 時まで本戦会場で試合観戦を行った。セキュリティが厳しく、国際空港の保安検査場並みであった。しかし会場の中は祭りのような賑わいであった。杉田祐一選手 vs メイヤー選手の試合を観戦。1－3 で負けたが、日本人が世界を相手に戦う姿に感動した。フラットボールの活用、ショットがぶれないように顔を残すこと、基本的にフラット・スライスボールを活用する時は息を吐き、ドライブ・エッグボールを活用する時は軸足を中心に駒のように体を使い、声を出して打つ。またレシーブが上手で、柔らかく返す、自分のスピードでショットを打つことの大切さを目の当たりにした。



9 月 1 日、黒須選手は M.Cappelliti 選手（ITA）に 0－2（①－6，④－6）で負けた。



菊地選手は J.Draper 選手（GBR）に 1－2（⑥－1，④－6，②－6）で負けた。

二人共に予選 1 回戦の敗退となった。黒須選手は 10 時から、菊地選手は 16 時からの試合となった。黒須選手は緊張からか、ヒットミスが多かった。2 セット目の 0－4 から奮起、4－5 まで追いついたが、残念な結果であった。

菊地選手は 1 セット目、展開の早さと回り込みストレートで相手につけ込み、ミスをさせて圧倒した。2 セット目は 0－3 から 3－3 に追いついたが、相手の開き直りのショットと勝ちを意識したのか、ステップインして打たなくなったことと、2 セット目の中盤からファーストサーブの確率が悪くなったことで、2・3 セットと連取された。



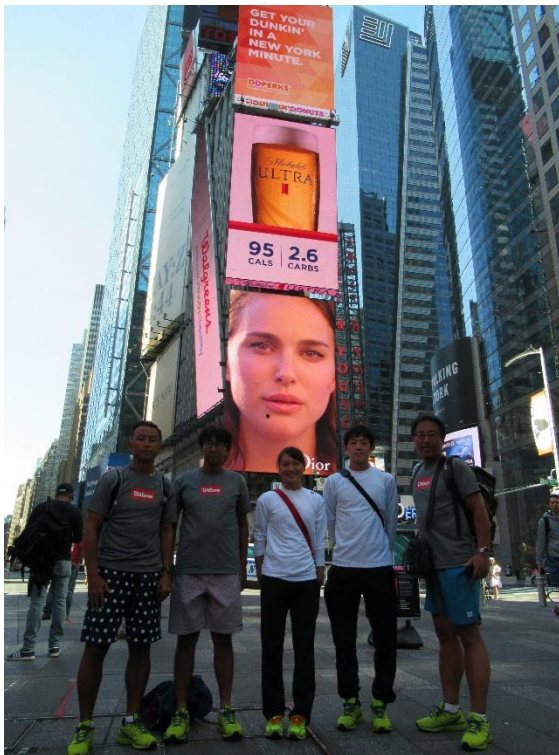
9 月 2 日、10 時～21 時まで奈良くるみ選手、大坂ナオミ選手、ナダル選手の試合観戦。M.ズベレフ選手、フェデラー選手、M.チャンコーチの練習を観る。

大坂ナオミ選手の後ろ側の足の膝が地面に着くほどに落として打つフラットボール、それを支える足の粘り。そして低いボールのさばき方が勉強になった。無回転でボールが飛んでいき、手元で伸びる。またナダル選手の観客を味方につけるパフォーマンス、攻撃的なバックハンドクロスストローク、スライスとネットプレーの絡め方が勉強になった。特に M.ズベレフ選手はフォアハンドストロークの苦手な生徒への良い見本であった。またスライスボールの使い方、コンパクトなボレーは大変勉強になり、そのプレイスタイルに魅了され、すっかりお気に入りの選手になった。



9月3日、10時～20時まで新星デニス シャポバロフ選手 vs パブロ カレルノ ブスタ選手の試合、シャラポワ選手、ビーナス ウィリアムズ選手等の試合観戦。M.ズベレフ選手とドルゴポロフ選手の練習を観た。

昨日の夕方から午前中は雨であった。アーサーアッシュスタジアムでカナダ出身18歳のシャポバロフ選手の試合は、ネットプレーの大切さとテニスが確率の競技であると改めて実感させられた。シャラポワ選手の試合は、前後の揺さぶりを通して、相手を崩すことの大切さの勉強になった。また M.ズベレフ選手を通して、ボールの飛ばし方とフィジカルの強さの大切さを考えさせられた。是非、ロシアンテイクバックを取り入れていきたい。



9月4日、9時半から観光を行う。徒歩でタイムズスクエアに行く。



地下鉄を利用して、ブルックリンブリッジに行く。

徒歩でアメリカ同時多発テロの世界貿易センタービルに行く。



セントラルパークで昼食を取り、徒歩でトランプタワー→ロックフェラーセンター→グラ
ンドセントラルステーションに行く。

一度ホテルに戻り、夕方、徒歩でエンパイアーステートビルディングに行く。

菊地選手と歩きながら、練習で意識していることやコートで打つ合間に考えていること等
について話す機会があった。戻ってから還元したいと思う。テイクバック、スイング、ネ
ット上のボールの高さ。高校生ながらよく考えているなぁと痛感した。



9月5日、羽田発の飛行機が6時間遅れたが、無事に帰ることができました。

先ずはこの様な機会を作って下さった全国高体連テニス専門部に何より感謝したいです。一番に感じたことは映像で見るより、実際にその場で見る方がはるかに得るものが多いということです。ニューヨークという土地は、古き良きものと新しいものとのバランスが素晴らしく、建造物にしても上手く調和が取れているように感じました。「温故知新」ではないが、若い人も年輩の人も、一人ひとりが大切にされている表れだと思います。

また、日本と違い、天井が高いことが人間の成長に何か影響するのかとも思いました。毎日、慌ただしく目の前のことだけに追われている自分から、ふと立ち止まって、今までを見詰め直し、そしてこれからのことについて考える良い機会になりました。なによりも、会場ではもちろんのこと、TVでも食事の時も、ホテルでも、いわゆるテニス漬けの毎日がとても有意義な時間でした。

本題に入りますが、運営に関してはマンパワー（人材）とお金の必要性を感じました。USTAは大会2週間の収益が、1年間の活動費にあたるそうです。それにグッズの売り上げを含めると、その3倍とも聞きました。宮崎県とは、審判の数、会場の大きさ等、比較したら切りがありませんが、何よりも今までに体験したことのない会場の雰囲気を感じることができたことが収穫だと思います。また、一緒に動向をさせて頂いた永井清二先生と黒田守先生と相談できる関係になれたのも何よりの財産になりました。2年後の南部九州インターハイに向けて、全国常任委員の先生方や地元スタッフと話し合いを重ね、より良い大会にしたいと考えています。

強化に関しては、高校テニス界のトップと11日間、コート内外それこそ寝食を共にし、多くのことを学ばせて貰いました。特に気さくな性格の菊地選手には色々話を聞きました。今回、菊地選手も黒須選手も悔しい思いをしたと思います。しかし私は彼らの生き方を見て、今後、二人みたいに応援したくなる選手・人格を育成したいと感じました。きっと二人はこの経験を活かして、日本を代表する選手として四大大会で活躍してくれると思います。そして国民に夢と感動と元気を与えていただきたい。期待しています。

USOPEN 振り返って 菊地裕太

まず初めに今回同行していただいた全国高体連テニス専門部の皆様、アメアスポーツジャパンの皆様、このような機会を与えていただき、本当にありがとうございました。

今回は予選1回戦で負けてしまい、自分の目標であったグランドスラムでの本戦初勝利は達成できませんでしたが、自分にとってとても貴重な経験をさせていただきました。グランドスラムという世界で大きな最も大きな舞台で、世界のトップジュニア、さらには世界のトップの ATP 選手をまじかで見、そこでプレーできたということは自分の自分のこれからの人生にとって特別な10日間になったと思います。

今回負けてしまった相手は、そこまで大きな差があったわけではなく、自分のメンタルやフィジカルなどにあと少しでも強さがあれば勝てるというような試合でした。それはスコアにも表れていて、ファーストセットを6-1でとり、この試合は勝てるんじゃないか、自分のもっといいショット、いいプレーを出したいなどの自分のプレーにもっとこうしたらという考えが出てしまいました。セカンドセットから自分のミスが増え、それによってさらにいいプレーをしなければという悪循環に陥ってしまいました。自分のメンタルコントロールや、相手の重いボールに押されるなどフィジカル面での課題が多く見つかりました。これでジュニアテニスは終わってしまいましたがこれからもテニスで世界のテニス選手と戦い、次は一般の舞台でまた戻ってきたいと強く思いました。

今回このような経験をさせていただき、すごく多くのものを発見しました。このような機会を与えていただき本当にありがとうございました。

US オープンジュニア

黒須 万里奈

この度は、us open junior という大きな大会に出場させて頂きありがとうございました。高体連の先生方、アメアスポーツの皆様、舌コーチ、サポートして下さった方々に心から感謝しております。

今回、私にとって初めての海外遠征で、不安もあったのですが、期待に胸を膨らませ参加させて頂きました。現地に入ってから2日間は時差に中々慣れず、食事や睡眠が上手く取ることが難しく体調が良くなるまで時間がかかりましたが、見るもの、触れるもの、どれも初めてでとても新鮮な気持ちで楽しく過ごすことができました。

試合までの期間の練習は、舌コーチに連れてきて頂いた Ava 選手や Andrea 選手と練習させて頂き、毎日とても良い環境で充実した練習をすることができ感謝の気持ちでいっぱいです。

試合は、とても緊張してしまいスタートからミスが目立ち、後半緊張がほぐれてきて良いプレーが増え追い上げましたが、1-6、4-6で予選1回戦敗退となってしまいました。

ファーストセットで後半のようなプレーが出来ていたらもっとたくさんチャンスがあったのではないかと、あの時もっとこうしていたらなどと悔いの残る結果となってしまいました。試合を通して技術や戦略、フィジカルだけでなく、メンタルの大切さを改めて感じることができました。緊張した場面でどう集中力を高め、どう高い集中力を保っていけば良いのか自分に合った方法を探求していこうと思いました。また、もっと高いレベルを目指して練習やトレーニングに積極的に取り組んでいかなければならないと思いました。

試合終了後の2日間は、朝から夜まで会場で試合を観戦させて頂き、会場の雰囲気を肌で感じることができました。アーサーアッシュスタジアムでの試合は日本ではない観客の盛り上がり方でとても感動しました。トップ選手の試合や練習を実際に自分の目で見ることができ、細かいフットワークや力みのない鋭いスイング、ポイント間の表情や仕草などテレビだけではわからないことがたくさんあり、とても良い勉強になりました。

11日間毎日、個性豊かな大人の方々、同じ高校生とは思えないくらい大人っぽい菊池君と過ごして、人それぞれいろいろな考え方があり、普段は考えないことを考えることがとても多く、不思議なくらい穏やかに過ごすことができました。これからも人との出会いは大切にしていきたいと思いました。

この遠征では、多くの方との出会いがあり、テニスだけでなくたくさんのことを学ぶことができました。この経験を活かし、高い目標を持ってテニスも人間性も更に成長できるように頑張ります。

11日間ありがとうございました。

2017 US Open Junior Tennis Championships

Yuta Kikuchi

Marina Kurosu

It has been a great pleasure to be a part of this special team for the 6th straight year! It feels like each year goes by quicker and quicker. With Yuta returning for the second straight year and with Marina being a teammate of Eri Shimizu, the champion the past 2 years, I felt like it was going to be quite an adventure. One thing is for certain in sports. There are no guarantees when it comes to the outcome. And at the Grand Slam level, anything can happen. We practiced extensively with the same training schedule as last year. I was fortunate to have found a few training partners, all of whom are nationally ranked and the best players in New Jersey. The three new teachers that came on this year's trip were very supportive and friendly and it made for a very light hearted environment. There were also several changes in terms of the coordination and management of the team which made my job very easy to focus on. It feels like we are constantly moving in the right direction each year and I'm sure next year will also be a success.

Marina Kurosu

This year's high school girls champion Marina was a very unique individual. She had never before played an international tournament overseas or in Japan. She was also not accustomed to traveling very far outside of Japan so her competition in NY(13 hour time difference) was a very big challenge. Marina had also been hurt during the summer and had to miss most of the big tournaments. The combination of all of these things made her adjustment to playing in the US quite difficult. Her body felt very heavy and the court surface and time difference and lack of match play increased the tension on her body as it was very evident during most of her practice sessions. Unfortunately she was unable to get a good practice session before her match and things were not looking very positive.

When the match had finally begun, Marina was so overwhelmed that she hardly won a point for the first few games. But she didn't give up and finally managed to get 1 game in the first set but losing it 1-6. The score would go to 1-6, 1-5 but instead of giving up, she fought back from being down match point to make it 4-5. Although she eventually lost 4-6, she finally looked like the champion that won the high school national tournament and someone that belonged in the US Open. I was very proud of her because she had a very difficult challenge and could have easily given up but at the very end showed incredible grit and determination. I hope that she has learned how tough it is to be a tennis professional. To fly from country to country to perform at the highest level and to have such mental toughness is no simple task. I am sure there is a lot that Marina has learned and I hope that she will keep growing as a player and as a person through the many experiences from this trip.

Yuta Kikuchi

It was very exciting when I found out that Yuta would be coming to NY again for the second straight year. He had an impressive summer and was determined to do better than last year at the Open. He knew what to expect from last year's experience and was quick to adjusting his body and mind. We had very good practices leading up to the match and he did not seem too nervous. I had told him not to get too confident because there are so many incredibly good tennis players around the world. Just like he surprised everyone with his performance last year, someone else may do the same to him this year.

As the match started, Yuta looked like himself and in complete control of the match taking the first set 6-1. But in a blink of an eye, all of that would change. His opponent, a 15 year old lefty boy from Great Britain, would start playing very aggressively. The

pace and depth surprised Yuta and before he knew it was down 0-3. He was able to fight back a few games but could never take the lead and would eventually play very conservative and indecisive. Eventually dropping the next two sets and the match. It was quite a shock at first and it took a little bit of time for reflecting. It was a perfect storm of all the wrong things that could have happened. 1) He was not put in a losing situation for quite some time because of his very successful year so far 2) His desire to perform even better than last year added some pressure 3) His lack of clarity on the important points 4) His equipment (racquet) was not perfectly prepared 5) Didn't visualize the possibility of losing so his mind went blank when it actually happened 6) Didn't know how to take momentum away from His opponent like taking a bathroom break or calling a trainer. But all of these things are part of learning and growing as a player. I'm sure Yuta is very disappointed about the result but I believe he will come back a stronger player because of it. It just goes to show that the mental aspect of sports will always be the toughest when you reach the highest levels.

Overall, I feel that all the teachers and players get to go back to Japan with a lot of incredible experiences and memories that will last a lifetime. I am very honored and proud to have been a part of this team for the past 6 years. I wish you all goodluck in the future!

Takashi Zetsu